

# 和し 鍛え 学ぶ

3月6日、本日「末野原中学校第39回卒業式」を行いました。39回生の皆さん、卒業おめでとうございます。保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。

39回生の皆さん、大変立派な返事、姿勢、そして歌。皆さんの姿に三年間の成長を感じ、目頭が熱くなりました。卒業式の間ずっと降っていた雨は、帰る頃には止んで青空がのぞいていました。ちょうど、雨のち晴れだった修学旅行を思い出しました。卒業しても末野原中学校のことを忘れないでください。皆さんの頑張りを後輩一同、職員一同、応援しています。



## 末野原中学校第39回卒業式

### 「校長式辞」

雨と日差し、暖かさと寒さを繰り返しながら、季節は確かな足取りで春に向かっていきます。本日、卒業式の挙行にあたり、豊田市議会議員 窪谷文克様、兵藤慎也様をはじめ、ご来賓の皆様にご臨席を賜り、高いところからではありますが深く御礼申し上げます。

保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。十五年間大切に慈しみ、育ててこられたお子様の成長した姿に、お喜びもひとしおのことと存じます。この三年間、本校の教育活動に、ひとかたならぬ御理解と御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

思春期真っただ中のお子様の三年間は、それほど簡単な日々ではなく、悩んだり立ち止まったりと、成長の道のりは決して真っすぐではなかったと思います。そんな中で、大切なわが子にどのように声をかけようか悩まれたり、心を痛めつつも見守ることしかできない苦しさがあったりと、葛藤されながら、懸命にお子様に寄り添われた三年間だったと思います。今日、こうして立派に卒業を迎えられたのは、ひとえに保護者の皆様の限りない愛情の賜物だと思います。大切なお子様を本校に預けてくださり、保護者の皆様とともに関わらせていただけたことを、本校職員一同、幸せに感じております。三年間本当にありがとうございました。

さて、卒業生の皆さん、とうとうこの日がきました。

令和三年四月、真新しい制服に身を包み、中学校の門をくぐった皆さん。杉浦主任や担任の先生の指導のもと「すごい学年」をめざした中学校生活はここからスタートしました。新しい友達との出会い、授業、テスト、部活動、学校行事。何もかもが新鮮な一年間ではなかったでしょうか。

2年生の職場体験では、働くことの大変さを実感し、部活動では、引退する先輩たちから託された立場の重さをひしひしと感じたことでしょう。乗鞍の自然教室、立志の会では、お家の方からの手紙に、自分がどれだけ愛情に包まれて成長したか改めて思いを馳せたことでしょう。

そして迎えた今年度、最高学年。わたしが皆さんと出会ったのはこの時。しっかりと話の聞ける、落ち着いた三年生だと感じたのを覚えています。コロナもやっと五類になり、長く制限されていた活動もようやく緩和へと舵を切りました。

5月、修学旅行。雨上がり、きらきら光る東京の夜景、劇団四季の「アナと雪の女王」、ディズニーランドや班別活動での弾ける笑顔。小学校高学年からコロナ禍で様々我慢をしてきた皆さんが見せる楽しそうな表情が、本当に嬉しかったです。

7月、部活動、最後の大会。あきらめず戦う姿。肩を抱き合って喜び、涙する姿。先生の指揮のもと、心を一つに演奏するコンクールでの姿。部活動での皆さんは、後輩の良き手本であり、培った仲間との絆は一生の宝物になったことでしょう。

『グレードE』の姿を、見る人の目に強く焼き付けたのは、何ととっても体育祭。圧巻の演技『雲外蒼天』。日に日に大きくなる掛け声は校長室まで響いてきました。太陽が傾き始め、西日がさす午後の運動場で、先生たちとともに熱く練習に取り組んでいた姿が忘れられません。体育祭当日、抜けるような青空の下、土埃(つちぼこり)をあげて力の限り舞う姿。見つめる先生たちのまなざしは「信じているぞ、頑張れ」と言っているようでした。三十九回生と先生たちが作り上げてきたもの、それは「信頼」と「きずな」。心に感動が広がり、目頭が熱くなりました。

思い出が詰まった中学校も今日で卒業です。義務教育は終わりです。今まで当たり前のようにそばで支えてくれた先生たちのもとを離れ、新たな歩みを始めなければいけません。次のグレードは、だれもシナリオを書いてくれません。自分の行く道を自分自身で見定め、自分の足で歩いていくのです。

人生は出会いと別れの繰り返し。良い出会いのためには、自分を磨かなければなりません。また、出会いと同じぐらい別れもあるでしょう。しかし、出会って関わった人とは、本当の意味の別れは存在しないと私は思っています。なぜなら、自分というものは様々な出会いによって作られており、出会いが体の一部となり、その人の本質を作っていくと思うからです。

最後に、私の好きな曲の歌詞を皆さんに読みます。

「糸」

なぜ めぐり合うのかを私たちは何も知らない (歌詞：中略)  
逢うべき糸に出会えることを、人はしあわせと呼びます



果てしない時の流れの中で、人と人との出会いは一瞬の奇跡。  
皆さんと出会えた私たちは、皆さんが卒業しても、皆さんの未来をずっと応援しています。  
末野原中学校三十九回生、新たなグレードへと力強く踏み出し、胸を張って歩んでください。

令和六年三月六日 末野原中学校長 平井千夏

